

平成28年度

学校自己評価表（最終報告）

学校運営計画				
学校運営方針		生徒一人一人の進路希望達成のため、職員の英知を結集し、学校としての組織力を高め、水産・海洋教育の特色を活かし、教育活動（学習指導、進路指導、生徒指導等）の充実を図り、地域・保護者に信頼される学校づくりを目指す。		
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
【成果】 ・進路希望の達成 ・中途退学者、進級不認定者、長期欠席者の減少 ・実習等の安全確保 ・PR活動の充実 ・地域との連携 【課題】 ・基礎学力の定着、学力向上 ・基本的な生活習慣の確立 ・キャリア教育の充実 ・生徒募集	生命、安全、健康に配慮した学習環境づくりを図る。	清潔で安全な学習環境づくりと使いやすい情報環境づくりに努める。 安全に配慮した実習、健康や健全な精神の育成に配慮した学校行事を実施する。 いじめ・暴力を許さない指導を徹底する。		
	基本的な生活習慣を確立させ、気力・体力・知力を充実させ、豊かな人間性の育成を図る。	挨拶、言葉遣い、服装指導の徹底及び問題行動、謹慎者・退学者の人数を昨年より減らす。 社会の一員としての自覚を醸成し、高校生としてふさわしい生活習慣を身につけさせる。		
	ICT活用と個に応じた指導や実習等により、学習意欲を高め、基礎学力の定着及び課題解決能力の向上を目指す学習指導の充実を図る。	授業を確保し、基礎学力の向上を図る。 生徒個々の実態に即した指導とICT活用により、学習意欲を向上させ、個の実現を図る。 目的を持たせることにより、積極的に学習に取り組む姿勢を涵養する。		
	産学協働教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、目的意識を高めるキャリア教育を充実させ、社会において有為な人材の育成を図る。	産・学・官と連携した事業に推進。 3年間の継続したキャリア教育としての進路指導を充実させる。 保護者との連携を密にする。		
	保護者・地域との連携を強化を図る。	P.T.A総会や各種行事を通して保護者との意思疎通の機会を設定し、啓発を図るとともに情報提供の場とする。		
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
ICT活用と個に応じた指導や実習等により、学習意欲を高め、基礎学力の定着及び課題解決能力の向上を目指す学習指導の充実を図る。	授業を確保し、基礎学力の向上を図る。 目的を持たせることにより、積極的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 (教務)	行事を整理・精選し、教科授業時数「1015」、「総合的な学習の時間」時数「35」、LHR時数「35」を確保する。 学習習慣の定着を目指すとともに、積極的に学習に取り組む姿勢を涵養するために、各学年部と連携して「 <u>考查自己評価票</u> 」および「 <u>家庭学習の記録票</u> 」の活用を図る。	A	
		新入生の実状を把握し各教科と連携した指導を充実させるために、「 <u>入学前学習調査</u> 」を実施する。 改定した「 <u>教務内規</u> 」の運用を円滑に進めるために、成績伝票の様式、 <u>考查の「受験心得</u> 」および「 <u>監督要項</u> 」の見直しを図る。	B	
		各 <u>考查</u> ごとに、成績不振者に対して事前補習をする。 (1学年)	A	
		各 <u>考查</u> の欠点所有者を全体の15%（11名）以下にする。 (2学年)	A	
	生徒個々の実態に即した指導により学習意欲を向上させ、個の実現を図る。 (学年)	学年末で欠点4科目以上による原級留置者を0人に、追認 <u>考查</u> 受験者数を学年全体で15%以下になるように指導する。 (2学年)	B	
		学年末の追認試験対象者数を全体で4名(5%)以下になるように指導する。1・2学期の成績でも欠点が8名(10%)以下になるように指導する。(3学年)	A	
		卒業認定における単位不認定者が0名となるように指導する。 (3学年)	A	
		目的を持たせることにより、積極的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 (水産科)	各科・コースの特色を生かし、生徒の課題解決能力やプレゼンテーション能力、表現力を高める。 各科・コースでの課題研究の他に、補習などを設定して資格取得率の向上を図る。	A
		基本的な生活習慣を確立させ、気力・体力・知力を充実させ、豊かな人間性の育成を図る。	立哨指導や服装・頭髮検査を実施し、挨拶・服装を正す。	A
			全校集会や学年集会を活用して問題行動が発生しないよう指導する。	A
カード制による生徒指導を全職員が共通理解し実行できるようにする。	A			
遅刻・早退を厳しく指導し、時間厳守で行動できるようにする。(1学年)	A			
挨拶、服装、頭髮等の指導を徹底し、基本的な生活習慣を身につけさせる。 (1学年)	A			
学年の出席率は99.0%以上をめざす。 (2学年)	B			
遅刻・早退を厳しく指導し、時間厳守で行動できるようにする。理由のない遅刻をなくす。 (2学年)	A			
家庭謹慎の指導を受ける生徒数を学年全体で延べ10名以下になるように指導する。 (2学年)	A			

		各クラスの出席率が99%を超えるように指導する。 (3学年)	B			
	(学年)	家庭謹慎の指導を受ける生徒数を学年全体で延べ3名以下になるように指導する。 (3学年)	A			
産学協働教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、目的意識を高めるキャリア教育を充実させ、社会において有為な人材の育成を図る。	(進路指導)	1年次に進路啓発講話(1学期)、進路が「イダ」ズ、上級学校・施設見学、地元企業見学(2学期)を実施し目的意識を持つ指導を行う。	A	A	A	
		2年次に地元企業見学(1学期)、進路が「イダ」ズ(2学期)、インターンシップ(夏休み等)、小論文指導(3学期)を実施し、具体的進路目標を定める力をつける指導を行う。	A			
		3年次に就職、入学試験の全体・個別指導(面接、作文、一般常識、適性検査等)を3学年部と連携して徹底させ、進路希望実現の力を養う指導を行う。	A			
		新たに『進路の手引き』を作成発行し、3年間を見通した一貫性のある指導を行う。	A			
	(進路指導)	保護者との連携を密にする。	P T A総会時に「進学のためのマネー講座」を開講し、進学希望の生徒が保護者から後押しを受けられるよう啓発を行う。	A		A
			地区別P T A時に、詳細な進路情報提供と学年別の意見交換を行う。	A		
保護者・地域との連携を強化する。	(生徒会)	地域貢献や学校PRにつながる学校行事を実施する。	A	A	A	
			地域の清掃活動等のボランティア活動を実施する。			A
	(広報渉外)	保護者・地域と学校との連携強化を支援する。	P T Aだよりの内容を充実させ、年2回発行する。	B		A
			スペシャルサイトを立ち上げ、動画を利用して生き活きた学習活動を発信する。	A		
	(学年)	保護者と連携を図り、学校への理解と協力を求める。	学年・学級通信を定期的に発行し、教育活動を紹介する。	B		B
			保護者面談を実施し、保護者との連携を図る。	B		
生命、健康、安全に配慮した学習環境づくりを図る。	(教育環境)	清潔で安全な学習環境づくりと使いやすい情報環境づくりに努める。	日常の清掃活動を徹底するとともに、年6回の大清掃および年1回のワックスがけを実施する。	A	A	
			性教育講話を実施し、全校生徒に生命の尊さを伝えるとともに保健指導を年間を通して行い、高校生らしい生活習慣、行動がとれるように注意喚起していく。	A		
			図書館を毎日昼休みと放課後に開館し、生徒が学習に取り組みやすい環境を提供する。	A		
	(学年)(生徒会)	安全に配慮した実習、健康や健全な精神の育成に配慮した学校行事を実施する。	安全第一に実習計画をたてる。実習中の事故をなくす。 (水産)	A	A	
			体育祭や文化祭、生徒交流遠足、球技大会などにおいて、発達段階に応じた活躍の場を与え、生徒が互いに思いやりを持ち、主体的に取り組むように配慮する。 (学年)(生徒会)	A		
		いじめ・暴力のない指導を徹底する。 (生徒指導部等)	未然防止指導や早期発見に取組み、生徒が気軽に相談できる体制を整備するとともに、様々な悩みに適切に対応し、安心して学校生活を送れるように配慮する。	A		
成果		・基礎学力定着、学力向上がみられ、学年末の追認試験対象者は例年と比較し減少傾向にある。 ・生徒指導案件が年々減少傾向にあり、基本的な生活習慣が確立してきた。 ・県、国の事業や、インターンシップ、授業・実習等をとおして、充実したキャリア教育を推進することができた。 ・県内外への生徒募集活動の成果があり、募集定員を超えた。	総合評価	A		